

# 世界とつながる。英語でひろがる。



## 講義例 1

長野県諏訪清陵高等学校  
(2019年9月開催)

テーマ

### The Psychology of Attention 「認知心理学」

講師

 Dr. Anllo, H.E. (早稲田大学)  
[アルゼンチン]

本講義には2年生14名が参加しました。アルゼンチン出身のDr. Anlloの自己紹介のあと、先生の研究分野である精神物理学、認知心理学の講義をしていただきました。脳の認知に関して、錯視の例を複数紹介してくれ、生徒は脳の認知の仕方の特性を体験しながら、先生の研究対象に惹き込まれていきました。講義の後に質疑応答の時間があり、英語での質問に苦戦しつつも活発に発問する様子が伺えました。




## 講義例 2

浦和明の星女子中学・高等学校  
(2019年6月開催)

テーマ

### Three big questions and my life journey in Astrophysics 「3つの謎と天文学への冒険」

講師

 Dr. Varri, A.L. (東京大学)  
[イタリア]

本講義には、高校1年生から3年生までの83名が参加しました。当日は、生徒主体で進行了。まず生徒から感謝の言葉と学校の簡単な紹介をしてもらいました。続いてDr. Varriから「天文学の3つの謎」と「女性研究者としての生き方」について講演がなされました。その後の質疑応答も、自身のことや高校生へのアドバイスを例え話とユーモア溢れる語り口で話されていました。最後に生徒から講義を受けての感想とお礼の言葉がありました。



## サイエンス・ダイアログで、教室に未来がやってくる。

### 2019年度サイエンス・ダイアログ参加者からの声



生徒から

- 英語のネイティブではない外国人の英語を聞き取る練習になった。
- 音声・動画など感覚的に分かるものがあったのが、とても分かりやすくて良かった。また、実物のものやデモがあるのはとても面白かった。
- プレゼンテーションやスライドの作り方がとても上手で分かりやすかった。自分がやる時の参考にしたいと思った。



学校の先生から

- 有孔虫を生徒たちが理解できるであろう身近なもの（お土産品で見る「星の砂」）を例にとり説明していただき、生徒たちの視点で講義をしていただけて良かった。生徒自身が話す際に、用語の解説などにおいて大事なこと（知識を持たない人にも理解できるように伝え方を工夫する）を実感することができたと思う。
- 新しい分野の研究内容を直接研究者から講義してもらうことで、現在学習している内容が基礎となり関連していることを生徒たちは実感できた。また、英語圏ではない研究者が英語で講義することで、英語が共通理解のための手段として有用であることが理解できた。



講師から

- I think it is beneficial to be able to meet and listen to the people who have such radically different life experiences, in other words, learn about the different paths that they take through life. Also, the image of a scientific/academic career might be unclear to high school students. Hopefully, they could get a glimpse of it.
- I thought the students would develop their interest in science more. Moreover, they enjoyed the fun of communicating in English while gaining confidence in their English language skills. They also learned about the cultures of other countries.



### 成功の秘訣は？

学校の先生方へ

- 講師との事前打ち合わせは、基本的に英語によるメールや電話にて行ってください。学振のウェブサイトには、講師との円滑なコミュニケーションのためのサンプル英文を用意しています。
- 講義当日は、講師と同じ専門分野の研究者が講義を補助してくれる場合があります。
- 生徒たちの理解をより深めるため、講義概要やキーワードリストの配布等、事前学習をすることをおすすめします。
- どのような講義にしたいか（例：内容、英語や専門性のレベル、実験の有無など）、参加校側の意図を明確に講師に伝えた上で、お互いに協力して講義の準備を進めることをおすすめします。

### その他、こんな講義が行われています！



#### Everyone is a Hero : How can we save The World?

マレーシア (岡山大学) 農学・環境学



#### Research on Frog Ecology in Madagascar

マダガスカル (京都大学) 基礎生物学



#### Science in everyday life: sociological approach to Japanese high-tech toilets

ポーランド (東京大学) 社会学



#### A Short Talk about Research and My Road of Becoming a Researcher

中国 (北海道大学) 人間医工学



### 参加校からのメッセージ

松浦 志保里 先生(滋賀県立彦根東高等学校)

本校では、SSH事業の一環として、国際性を持った科学技術者の育成を目的とし、本プログラムを利用させていただきました。将来、海外の人々と渡り合っていく上で語学力はもちろん大切な事ですが、「何について議論するか」というトピックはそれ以上に必要です。研究内容が高度な事も理解に苦労する生徒もいますが、英語で理解できたときの感動はひとしおです。英語を英語のためだけでなく、ツールとして交流する経験・感動を味わえることは非常に貴重な経験になります。

